

鉋の薄削り。

それは、

日本の木工技術の  
基礎であり極み。

鉋屑は本来、仕事の副産物ですが、  
大の大人を夢中にさせる奥深さがあります。  
その厚みわずか数ミクロン(1/1000mm)という極限に達するには、  
研ぎや台の調整など数々の習練と工夫を要し、  
いわば技の結晶のようなものなのです。

# 削るら会

  
kezuroukai.jp



## 薄い鉋くずは、 材木がきれいに仕上がった証

薄削りで仕上げられた材木の木肌には、  
艶やかな光沢があります。それは、  
見た目美しく手触りがいいだけでなく、  
水をはじき汚れにくいので、  
家具や家は丈夫で長持ちするのです。

日本の伝統的な木造建築に、木の地肌を  
そのまま使う白木造が多くみられるのは  
鉋の技術があればこそ。

また、白木には適度な吸湿性があり、  
空間の湿度調整の役目も果たしています。  
鉋の薄削りの技が、木の力を最大限に引き出し、  
心地よい空間や生活道具をつくっているのです。

